

市民協働事業 相互評価シート

1 市民協働事業の概要

事業名称	市民公益活動緊急支援事業	
事業の実施者	団体等	市民セクターよこはま・関内イノベーションイニシアティブ共同事業体（以下、「共同事業体」という）
	行政	横浜市市民局市民協働推進課（以下、「協働推進課」という）
事業の目的	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、事業継続に多大な支障が生じている市内のNPO法人等の公益団体と、これらの団体を支援する中間支援組織に対し、事業の継続と今後の回復期を見据えた事業展開を図れるよう支援するため、助成金を交付するほか、助成金を申請する団体や相談のあった団体の活動継続や回復期の新たな取組に対し、市民活動の知見を持ったコーディネーターにより、事業手法のアドバイスや活動のコーディネートなどの支援を行うことで、より効果的な事業展開につなげる。	
事業の内容	助成金交付事業、NPO法人等緊急サポート事業	
役割及び責任分担等	別紙参照	
実施期間	令和2年7月8日から令和3年3月31日	

記入日	2021 年 6 月 30 日
記入者	<p>[団体等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体等名： 市民セクターよこはま・関内イノベーションイニシアティブ共同事業体 ・記入責任者 氏名： 統括責任者 吉原明香 連絡先： 045-671-4732
	<p>[行政]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部署名： 市民局地域支援部市民協働推進課 ・記入責任者 氏名： 市民協働推進課長 岡本今日子 連絡先： 045-671-4734

【別紙】役割及び責任分担等

事業項目	市民セクターよこはま・関内イノベーションイニシアティブ共同事業体の役割	横浜市の役割
助成金交付事業	<ol style="list-style-type: none"> 1 助成金申請に関する入力フォームの運用・調整 2 助成金申請及び活動に関する相談受付・アドバイス・記録 3 助成金申請受理・審査・連絡 4 事業報告書受理・確認・連絡 	<ol style="list-style-type: none"> 1 助成金制度の設計、募集要項等の作成 2 助成金申請に関する相談受付 3 助成金交付 4 助成金確定、返還等対応
NPO法人等 緊急サポート事業	<ol style="list-style-type: none"> 1 活動に関する相談受付 2 活動に関するアドバイス・コーディネート 3 サポートの記録及び報告書の作成 	<ol style="list-style-type: none"> 1 活動に関する相談 2 横浜市役所内の連絡調整相談 3 横浜市各部署との連携 4 事業費負担（全額）
事業広報	<ol style="list-style-type: none"> 1 事業広報 2 取組事例紹介、情報発信 	<ol style="list-style-type: none"> 1 事業広報（本市媒体） 2 取組事例紹介
事業報告	<ol style="list-style-type: none"> 1 記録及び事業報告書の作成 	—
事業費	—	<ol style="list-style-type: none"> 1 事業費負担（全額）

2 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「3 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないます。

◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

① 事業計画段階

		共同事業体	協働推進課
1	自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。	A	A
2	お互いの立場や組織の違いを話し合っよく理解することができましたか。	A	A
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合っ決めてことができましたか。	A	A
4	実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合っ役割分担を決めることができましたか。	A	A
5	会計のルール等、お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合っよく理解することができましたか。	B	B
6	事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	A

② 事業実施段階

		共同事業体	協働推進課
1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	A	A
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	A	A
3	相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	A	A
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	A	A
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	A	A
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	B	B
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	B	B

③ ふりかえり段階

		共同事業体	協働推進課
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合っ共有できたか。	A	A
2	受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合っ確認することができたか。	B	B
3	これまでを振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができたか。	B	B
4	期待された事業成果を得られることができたか。	A	A

3 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結果をもとに、相互で本検証シートを作成します。

事業の計画づくり (協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
【共有できたことや認識に違いがあったこと・改善が必要と思われること】 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けている市民公益活動団体を緊急支援するため、非常に短期間で計画をつくる必要があったが、スケジュールや優先順位を共有し、限られた時間でも多くの意見交換を重ね、役割分担をすることで速やかに実施することができた。 ・助成金の制度設計段階から議論を重ね、総額 7,500 万円・215 団体想定という枠組みとなった。また A コース（市民公益活動を行う団体向け）・B コース（中間支援組織向け）の 2 コースを設けたことで、相互支援に繋がるユニークな内容にもできた。 ・互いのスピーディーな対応でシステム設計を一か月で行い、協働の力を実感する計画づくりとなった。
事業実施 (協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
【共有できたことや認識に違いがあったこと・改善が必要と思われること】 ・申請団体に個別の事情があった場合、都度市民協働推進課・共同事業体間で協議をしながら丁寧に対応することができた。 ・書類について不備の有無や質的な確認を相互の特性を活かして行い、誤りなく事業が実施できた。 ・想定問答の用意が不十分な点があり、団体とのやり取りで混乱をきたしてしまったことがあった。今後はこういった質問が発生するか、協議の時間をとることでより改善できると思われる。 ・1 次募集時の申請受付対応を振り返り、2 次募集や報告書類の提出時には協働で記載例を作成して対応でき、申請団体や事務局の負担を減らすことができた。 ・報告書の提出状況に応じて団体へ連絡をしていたが、連絡がつかず提出書類に不備があった団体もあったが、上手く連携し、無事期限内に完了することができた。
事業の成果 (協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。)
・互いの広報手段を使い、広く当事業を周知することができ、255 団体と多くの団体へ支援ができた。 ・助成金の交付を受けた団体の報告書には、「活動の維持・支援に必要な設備等を、整える一助となった」「申請や報告手続きの中で、改めて自分たちの活動について立ち止まって考えることができた」等の記載が多数見られ、コロナ禍にあっても活動を継続するための基盤づくりに大きく寄与できた。 ・市民協働推進センターの運営事業者が助成金事務局を担ったことで、枠を超えて広く活動の相談にのって支援できた。また、中間支援組織向けの支援では、中間支援組織としての機能の果たし方のアドバイスを行えたことで、より良い支援に繋がった。
自由記入欄
・他団体の活動を支援する B コースを設けることで、B コースに取り組む団体が中間支援としての力を培い、強化する機会を創出した。 ・県内の団体が行った、コロナ感染拡大の影響と対応に関する NPO・市民活動団体向けアンケートの調査結果を事前に共有していたことで、共通認識のもと助成金の設計が速やかにできた。 ・協議の結果、法人格のある NPO 法人だけでなく任意団体も対象範囲に含めたことで、支援を必要とする団体に広くリーチすることができ、活動の大小に関わらず受益者に求められている活動に的確に支援することができた。